

残暑が厳しい日々。久々に講壇に立たせていただきます。また入院中も姉ヶ崎の講壇が守られたことを感謝します。改めてここに立たせていただいて、緊張しますが、この時をありがたく思います。

1. 生きることはキリスト (1章21節)

- ①軸となる言葉 21節は獄中から手紙を送るパウロにとって、大切な確信でありました。また、この書簡を受け取る者達にとっても、鮮烈な印象を与えるメッセージになりました。これほどの明確な信仰が伝えられたのは、主がパウロを強く押し立てたからに他なりません。
- ②生きることはキリスト 地上にあって生きるには、この肉体が用いられます。頭脳の統括のもと、内臓諸器官が働いて肢体が動かされます。何を考え、思い、行なおうともとも、止まることなく時間が経過します。パウロはそうのように生きる一人として、明確に「生きることはキリストだ」と宣言したのです。つまり、キリストを中心に考え、思い、行動したのです。キリストに集中したのです。
- ③死ぬことも益 ここにパウロの死生観の重要なポイントがあります。私たちの周りにおける死生観には種々あります。「死ねばすべてが終わり」という考えがあり、「死は完成」という考えがあり、「否と断言しつつ生きて死んだ」という中江兆民のような人もあります。パウロにとって死ぬことは終わりではなく、キリストと何の隔たりもなくともにあることのはじまりなのです。

2. 板ばさみ (1章22～24節)

- ①豊かな実を結ぶ (22節) パウロは死ぬことにも積極的な意味を見出しつつ、自らの肉体の命が続くことの意味を考へることも忘れません。これまでのパウロの宣教人生においても、大いに用いられ多くの人々がキリストを信じ、多くのキリスト教会が生まれてきました。そして、生き続けるなら豊かな実を結ぶことが予想されます。多くの、「失われた人が救われる」(ルカ 19:10) 可能性が高いのです。だから、使徒パウロが「どちらを選んだら良いかわからない」と言うのです。
- ②板ばさみ (23節) 世を去ってキリストとともにいることを願いとするパウロがある一方で、肉体において地上にとどまることの意義もあるので、双方の板ばさみになっていると、パウロは言います。パウロは地上を去ることのほうが、はるかにまさっているというのです。パウロの葛藤です。
- ③肉体にとどまる (24節) しかし、そこまでキリストとともにいることにはこがれを伝えるパウロですが、思い直します。ピリピの教会の人々のことを思えば、肉体にとどまることは、もっと必要なことだと伝えます。

3. ピリピ教会の人々のために (1章25～26節)

- ①信仰の進歩と喜びのため (25節) パウロ先生に祈られ、教えられ、導かれた幸いなピリピ教会の人々。彼らの信仰の進歩と喜びのためにも、パウロは地上における命をさらに続けなければならないと、主において発奮させられたのです。
- ②生きながらえて (25節) 生きながらえて、ピリピの人々といっしょになるという確信が、パウロに与えられて葛藤はおさまっていくのです。パウロにとって生きながらえることを望ませたのは、自分のためではなく人々の信仰が確実にされていくことのためでした。
- ③キリストにある誇り (26節) 彼がピリピの人々のところに行くことになれば、ピリピの人々はパウロによって、「キリスト・イエスにある誇りを増すことになる」(口語訳) のです。クリスチャンがキリストにある誇りを持ち、それを深めていくことはどこまでも大切なことなのです。

《結論》 私は病がわかってから、これまでに何回も「もう少し生かしてください」と祈りました。「行く末遠く見るを願わじ」(讚美歌 288・2節) とありますが、5年、10年、20年とつい先を見てしまうのです。パウロの見方は少し違いました。パウロはキリストとともにあることに価値をおきました。死ぬことはキリストとともにあることですから、彼はむしろそれを願いました。でも、地上にある人々のことを忘れていたのではありません。だからこそ彼は葛藤したすえに、地上にとどまって働きを続けることを良しとしたのです。

朝岡茂先生(元土浦めぐみ教会牧師)は28年前に48歳で召されました。その働きが継続されれば、さらに豊かな実りがあったに相違ないのです。「生きるにしても死ぬにしても」(朝岡満喜子著)は、夫が末期ガンを患った妻の看病記です。どうして主はこのような有能な器を、もっと生かして下さらなかつたのでしょうか。

生死のことは、すべて主の御手にあります。パウロはこれからしばらく生かされ宣教生涯の結びへと進みます。実はさらに豊かに結び、クリスチャンはキリストにある誇りを深めていきました。キリストとともにあることに価値を見出すものが広がっていったことでしょう。

「あれやこれをなすまでは生かしてください」という祈りも主は聞いてくださると思います。しかし、「キリストをもっと知るようになしてください」、「キリストにある豊かな実を結ばせてください」という祈りを主は喜んでくださることは間違いがありません。